

朝見遺跡（第7次）その4

所在地 : 松阪市和屋町・立田町（まつさかし わやちょう・たつたちょう）

位置情報URL : [三重県地図情報サービス 朝見遺跡発掘調査現場](#)

今年度の朝見遺跡の発掘調査が終了しました。

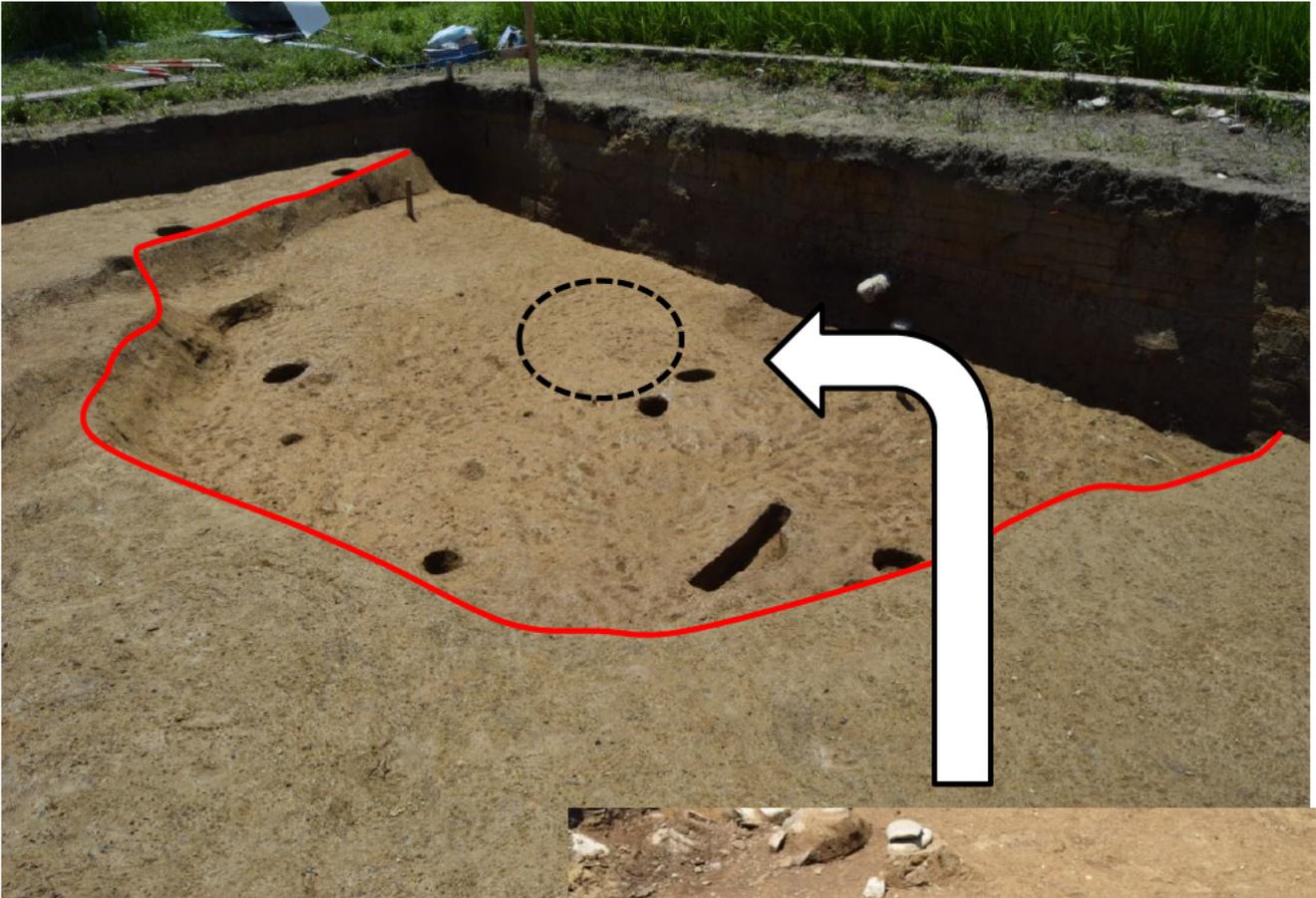
朝見遺跡では、5月から発掘調査を始めてきましたが、9月14日に無事第7次調査を終了することができました。今年度の調査では、縄文時代～近世に至るまで幅広い時代の遺構・遺物が見つかりました。HP最終回となる今回は、朝見遺跡第7次調査での成果を中心にご紹介します。

出土した縄文時代の石器



出土遺物は、縄文土器・^{せきぞく}石鋏・^{せきふ}石斧・^{せきすい}石錘などがあります。注目すべきは、石錘が多く出土したことです。石錘は、漁で使う網の下端に取り付けるおもりであることから、朝見遺跡にいた縄文時代の人々が漁業を行っていたと考えられます。

検出された縄文堅穴建物と遺物が見つかった様子

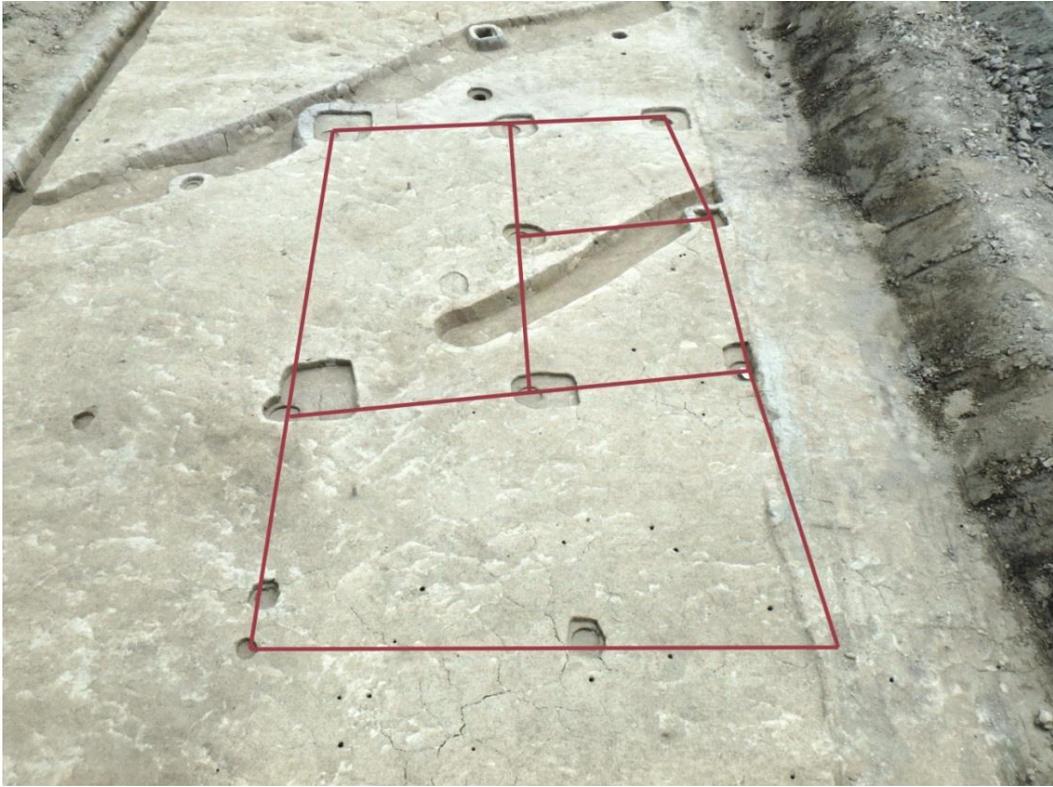


写真は、朝見遺跡調査区1区から発見された堅穴建物です。

堅穴建物の中心部からは、多くの縄文土器片や石器が見つっています。



平安時代の掘立柱建物



6. 3 m × 3.6 m の掘立柱建物（朝見遺跡調査区8区）

墨書土器



今回出土した墨書土器の年代は、平安時代末から鎌倉時代までと考えられます。皿の内側と外側の両面に多くの文字が書かれています。表の文字については、「之十」もしくは「三十八」と書かれている可能性があります。いずれも重ね書きをしているので、手習い（文字の練習）か、まじないに用いられたものと考えられます。

江戸時代半ばには埋まっていたと考えられる溝



和屋集落北側の溝（東から）

現在の和屋集落のすぐ北側で東西方向に走る大きな溝が見つかりました。この溝からは、18世紀に作られた陶器や磁器が出土していることから、江戸時代の半ばには埋まっていたと考えられます。陶器や磁器のほか、当時の木簡も見つかりました。この溝を掘ってみたところ水分が多かったため、木製品が現在まで腐らずに残ったと考えられます。

出土した木簡

木簡は、江戸時代のもので、一文字目は「伝」「諸」「転」「傳」などと、二文字目は「谷」「釜」などと読める可能性があります。現在調査中です。江戸時代になると、紙に書かれた文書も多く残っていますが、木簡は、それ以外の文字資料として、この地域の歴史を知るうえで、貴重なものです。



出土した江戸時代の陶磁器

すり鉢^{ぼち}



わん
椀

白い地に青い染付で網目の紋や草花の紋が描かれた3点の磁器の椀は、18世紀ごろに肥前、(今の佐賀県)で作られたものです。また、写真左下の黒い茶椀は、鎧茶椀と呼ばれるものですが、これは18世紀に瀬戸美濃(今の愛知県、岐阜県)で作られた陶器です。

すり鉢は、現在のものと比べるとすり目も粗く、すり目の本数も少ないことがわかります。新しい時代になるほど、すり目の本数が増えて、目も細かくなります。

最後になりましたが、今年度の調査期間中、地元の松阪市和屋町・立田町の皆様には、多大なご理解、ご協力を頂き、改めて皆様に心から感謝いたします。また、お問い合わせがありましたら気軽にご連絡ください。



<問い合わせ先> 〒515-0325 三重県多気郡明和町竹川503

三重県埋蔵文化財センター調査研究1課

担当者：萩原・谷口・杉村・鐸木・水谷・村田

電話：0596-52-1732 FAX：0596-52-7035

E-mail：maibun@pref.mie.jp